

## 【実践報告】

# 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部における 2016年度ピアレビュー実施状況とアンケート調査結果報告

田島 明子, 矢倉 千昭, 佐藤 順子, 田中 真希

聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部 FD 委員会

## The Status of Faculty Peer Review Implementation and Survey Results of 2016 in the School of Rehabilitation Sciences at Seirei Christopher University

Akiko Tajima, Chiaki Yagura, Junko Satou, Maki Tanaka

Faculty Development Committee, School of Rehabilitation Science, Seirei Christopher University

### 要旨

本報告では、聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部において2016年度春 semester に実施したピアレビューの実施方法と実施状況、アンケート調査結果について報告し、ピアレビュー実施の意義と今後の課題について整理をした。アンケート調査の結果から、ピアレビューについて自分では気づけない授業改善に役立つ指摘がもらえたことを「よかった」と感じている教員がほとんどであり、ピアレビューがFD活動を行っていくうえで有意義な機会となることが確認された。しかし、評価項目の項目内容や項目数、記述方法の工夫、レビュアーの選出やピアレビューの実施にあたりレビュイー、レビュアー双方が負担を生じないために必要な配慮について学部FD委員会から促す等の改善を要する点も明らかとなった。

## 1. はじめに

ピアレビューについては中央教育審議会による答申において「授業内容を公開するなど、教育・研究指導の内容を同一学科内の教員が評価できる仕組み（いわゆるピアレビュー）を導入することも効果的である」<sup>1)</sup>としており、近年、大学教育における授業改善の方略のひとつとしてうたわれている。しかしながら、ピアレビューの実施については、実施者や参加者の負担感や徒労感の増加、事務手続きの増大、参加教員の固定化と減少などの問題点とその背景として力づくで評価制度を導入することが問題点として指摘されている<sup>2)</sup>。FD (Faculty Development, 大学教員の教育能力を高めるための実践的方法) の形骸化を避けるためにも、ピアレビューの実施に際してはそれらのデメリットを最小限化し、ピアレビューを行う教員にとってメリットを感じられる実施の工夫が必要となってくる。

そこで本学リハビリテーション学部FD委員会では2014年度より「リハビリテーション学部授業相互観察による教育力向上週間」(オープンウィーク)を設け、教員相互に授業観察を行うことで、自己内省的に自らの授業の改善点の発見に役立てるための機会を設けたり、また2015年度からは、上記の問題点を極力解決できるような実施形態を工夫したかたちでのピアレビューを実施したりし、継続的なFD活動に結び付けられるよう取り組みを行ってきた<sup>3)</sup>。

本報告では、2016年度春semesterに実施したピアレビューの実施方法と実施状況、アンケート調査結果について報告し、ピアレビュー実施の意義と今後の課題について整理をした。

## 2. ピアレビューの実施方法と実施状況

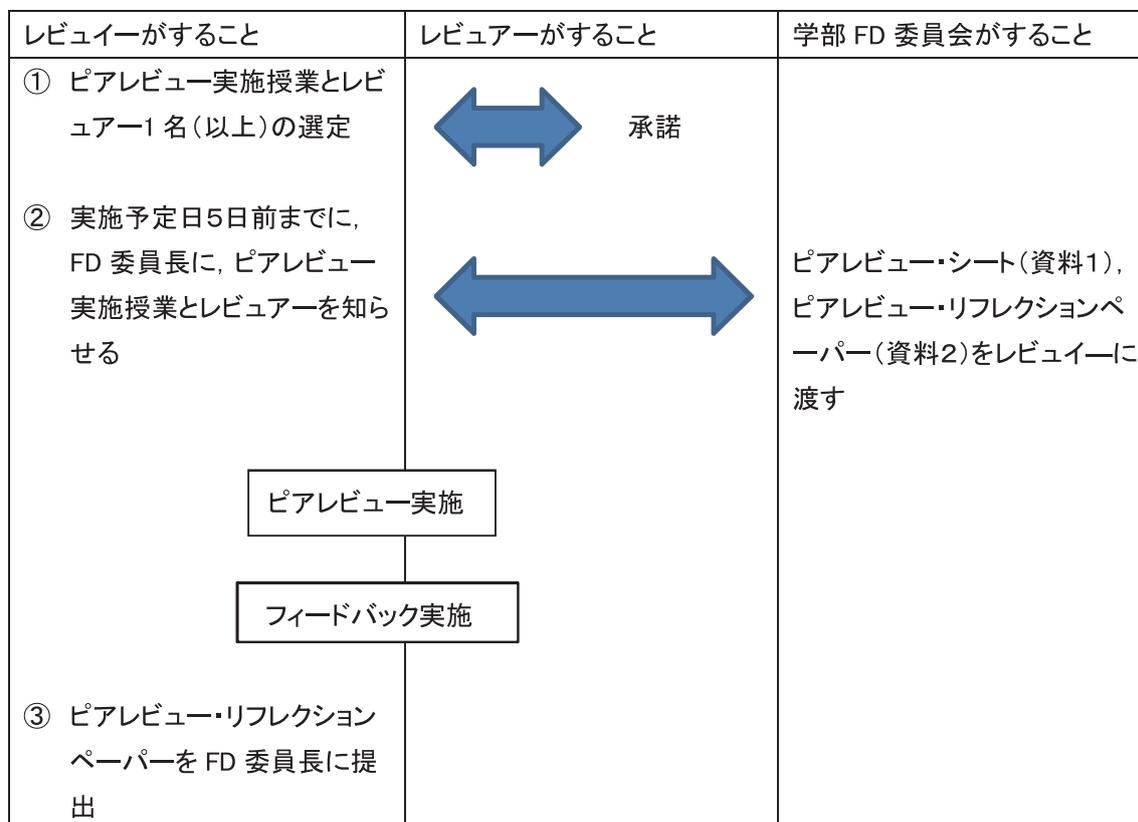
すでに述べたとおり、本学リハビリテーション学部では2015年度秋semesterよりピアレビューを実施しているが、その際の実施の経緯や実施方法、実施状況については矢倉他<sup>3)</sup>に詳細が紹介されているので参照されたい。本稿では2016年度春semesterのピアレビューについての詳細を以下に述べる。

新任教員が2名いたこともあり、2016年4月20日に実施した2016年度第一回目のリハビリテーション学部FD勉強会ではピアレビューを主題とし、昨年度の実施状況と今年度の実施方法について説明を行った。

実施方法は図1のとおりである。レビュー(授業公開者)はリハビリテーション学部常勤教員全員(30名)とした。レビューはピアレビュー実施授業とレビュー(授業参観者)1名(以上)を原則としてリハビリテーション学部教員から選定し、リハビリテーション学部FD委員長(以下、FD委員長とする)に報告をする。ピアレビュー・シート(図2)とピアレビュー・リフレクションペーパー(図3)は本学専用のクラウドに保存し、レビュー、レビューが自由にダウンロードできるようにした。ピアレビュー・シートについては、昨年度、全学部で用いる共通シートが作成されたため、それを使用した。ピアレビューとピアレビュー内容のフィードバックについては、レビューとレビュー間で日程等を調整し実施することとし、レビューはピアレビュー後、ピアレビュー・リフレクションペーパーを記載し、FD委員長に提出するという手順で行った。

実施状況についてであるが、2015年度秋semesterに実施した際には3割程度の実施率で

あったが, 今回はリハビリテーション学部常勤  
教員全員(30名)が実施した.



注)レビューイ:授業公開者、レビューア:授業参観者

図1 ピアレビューの実施手順

2016年度聖隷クリストファー大学全学共通ピアレビュー・シート

1. 授業日 2016年 月 日 ( ) 時限
2. 授業科目名( ) 担当教員( )
3. 単元タイトル(当該授業の題名)( )
4. ピアレビューの項目

①学生の様子	コメント
聴講の態度	
理解の反応(ノートのとり方など)	
自主的な意見など	
②授業の展開	コメント
導入	
展開	
まとめ	
③教授方法	コメント
事前・事後学修への指導と確認	
教材の示し方	
学生への問いかけなど	
④その他	コメント
⑤単元目標の到達について	コメント
レビュー氏名( )	

図2 ピアレビュー・シート

2016年度 聖隷クリストファー大学ピアレビュー・リフレクションペーパー

1. 記載日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日
2. 授業実施日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_\_ 限目)
3. 科目名( \_\_\_\_\_ )
4. レビュイー(授業公開者) ( \_\_\_\_\_ )
5. レビュアー(授業参加者)( \_\_\_\_\_ )( \_\_\_\_\_ )( \_\_\_\_\_ )

コメントの概略をお書きください

コメントの内容をどのように授業に反映させる計画か、お書きください

図3 ピアレビュー・リフレクションペーパー

### 3. アンケート調査結果

次に、ピアレビュー実施後に行ったアンケート調査結果について報告する。アンケート調査では、「ピアレビューを受けた感想について」

と「ピアレビューを行った感想について」の2側面から調査を行った(図4)。また、自由回答については、回答数が多く内容に多様性があった項目について回答内容の類似性と差異性に基づきカテゴリ化を行った。

ピアレビューについてのアンケート

アンケートは、ピアレビューを受けた経験(表面)、ピアレビューを行った経験(裏面)について質問しています。ピアレビューを行わなかった場合、裏面については回答いただくことなく結構です。

ピアレビューを受けた経験

1. ピアレビューを受けてみた感想をお聞かせください。

- ・ピアレビューを受け(よかった ・ よくなかった ・ どちらでもない)
- ・その理由をお書きください

2. ピアレビューを受けることで何か支障はありましたか? あった場合は内容を教えてください。

- ・支障は(あった ・ なかった)
- ・支障があった内容をお書きください

3. 評価項目についての感想をお聞かせください。

- ・評価項目は(このままでよい ・ 変更が必要と思う ・ その他)
- ・その理由をお書きください

4. 今回のピアレビューについて、ご感想、ご意見をお願いします。

図4 ピアレビューについてのアンケート調査用紙

ピアレビューを行った経験

1. ピアレビューを行って見た感想をお聞かせください。
  - ・ピアレビューを行い ( よかった ・ よくなかった ・ どちらでもない )
  - ・その理由をお書きください
  
2. ピアレビューを行うことで何か支障はありましたか? あった場合は内容を教えてください。
  - ・支障は ( あった ・ なかった )
  - ・支障があった内容をお書きください
  
3. 評価項目についての感想をお聞かせください。
  - ・評価項目は ( このままでよい ・ 変更が必要と思う ・ その他)
  - ・その理由をお書きください
  
4. 今回のピアレビューについて、ご感想、ご意見をお願いします。

**1) ピアレビューを受けた感想 (調査対象者数 30, 回答数 27)**

**1-1) ピアレビューを受けてよかったか (有効回答数 26)**

「よかった」が23名(88%)であり、「よくなかった」と回答した人は0名(0%),「どちらでもない」が3名(12%)であった。

**1-2) 上記回答の理由**

(1) 「よかった」と回答した理由

- ・参考になる意見を頂いた。
- ・授業進行に集中すると、隅々まで目が行き届かないことがあるが、客観的な目で指摘してもらえることで、気づきにつながりと思った。自分では気づかない点を指摘して

頂くことができた。改善してより良い授業を行っていきたい。

- ・建設的な意見があり、良かった。
- ・授業参観を受けること自体が、自身の授業スタイルを見つめるきっかけとなるため。
- ・他の人からいろいろ意見を言って頂くのは一般的に意義がある。
- ・授業内容の構成を考え直すきっかけになった。
- ・自分では気づけないようなアドバイスがもらえた。気づかない点を把握できた。
- ・自身とは異なった視点のアドバイスを頂くことができた。
- ・自分の講義について第三者にみていただき、改善点などが明らかになった。
- ・授業改善に必要な情報を得ることができた。
- ・授業の進行や内容について客観的にフィードバックを受けられた。
- ・あらためて自分のやり方を振り返る機会となった。
- ・気づかなかった点を指摘してもらえらる。
- ・気になっていたところの改善方法についてアドバイスがもらえた。

#### (2) 「どちらでもない」と回答した理由

- ・反転授業における事前学習やリアクションペーパーの受け答えなど、学習全体の構成や方法といった（個人的に最も欲しい）情報が得られないため。

#### 2-1) ピアレビューを受けることでの支障はあったか（有効回答数 25）

「なかった」が21名（84%）, 「あった」が4名（16%）であった。

#### 2-2) 「支障があった」と回答した理由

- ・他業務との調整が大変であった。
- ・時間調整が難しい。

- ・15コマの中で何かを教える授業ではなく、1回1回継続することに意義がある授業なので、その中の1コマピアレビューしただけではあまり意味がない。
- ・レビューの目があると普段の授業よりも授業のやりにくさを感じる。

#### 3-1) 評価項目について（有効回答数 25）

「このままでよい」が20名（80%）, 「変更が必要」が4名（16%）, 「その他」が1名（4%）であった。

#### 3-2) 上記回答の理由

##### (1) 「変更が必要」と回答した理由

- ・もう少し自由度があっても良いと思う。
- ・評価用紙の使用目的に応じて調整が必要だと思った。
- ・反転授業における事前学習やリアクションペーパーの受け答えなど、学習全体の構成や方法といった（個人的に最も欲しい）情報が得られるような評価項目がほしい。

##### (2) 「その他」と回答した理由

- ・現行のものが悪いとは思わないがより良い評価方法は常に検討していくべき。
- ・文言の表現やレイアウトは、その年度の開始前にチェックをすると良い。
- ・このままで良いのかがわからない。

#### 4-1) レビューアーのフィードバックについて（有効回答数 26）

「役に立った」が24名（92%）, 「役に立たない」が1名（4%）, 「その他」が1名（4%）であった。

#### 4-2) 上記回答の理由

##### (1) 「役に立った」と回答した理由

- ・具体的な対応について助言をもらえた。
- ・色々指摘して頂けたので、改善したい。
- ・考えさせられる内容であった。
- ・他者に意見が聞ける点は有用。
- ・よく授業を見て頂いたと思う。

- ・講義時間は多くの学生に目を配っていたつもりだが、それができていないことが分かったため。
- ・気づかない点であったので。
- ・自身とは異なった視点であった点。
- ・的確で具体的なものであったため、次の授業にいかすことができた。
- ・自分では気づかないことに気づかされた(話し方や癖、学生の反応など)
- ・自身の授業を客観的に見直す良い機会となった。継続してほしい。
- ・気づかなかった点を指摘してもらえらる。
- ・気になっていたところの改善方法についてアドバイスがもらえた。

#### (2) 「役に立たない」と回答した理由

- ・予想通りだった。

### 5) 感想, 意見

#### (1) 良かったとする感想・意見

- ・継続して欲しい。
- ・実施期間をきっちり設けていないのがよかった。
- ・自分ではわからない改善すべき点が良く理解できた。続けてほしい。
- ・ピアレビューは客観的に授業を評価するのにとても役に立った。

#### (2) 改善を要するとする感想・意見

##### <実施方法>

- ・強制(要)する必要があるのか疑問に感じた。目的を持って行ったので良かったが、そうでないとお互いにストレスになるのではないか。
- ・講義における話し方や目配り等のテクニカルなものについて得るものはあると思うが、反転学習やアクティブラーニングにおける重要な内容(事前学習の内容・レベル・ツール、リアクションペーパーの内容や

フィードバック等)の評価はピアレビューでは原理的に得られないので、今後も続ける価値があるのかについては大いに疑問を感じる。

##### <業務との調整>

- ・各個人で業務量が異なるため、調整に苦労した。

##### <レビューアについて>

- ・仲のよい教員同士とならない様にする工夫が必要。同じ専門性を持った教員のレビューが参考になる。
- ・レビューアを頼む際に授業で忙しそうに頼みづらい雰囲気もあった。
- ・職位が自分よりも上の人に対して行うレビューはとてもやりにくい。
- ・レビューをしてくれた先生が気を遣ってプラス面ばかりであったので、どこかマイナスはあると思うので、そのような点の指摘がほしい。

#### (3) 疑問点

- ・同じ講義でもピアレビューに馴染むコマと馴染まないコマがあり、馴染むコマを見て頂くように調整した。そのため、完全に普段通りという訳ではないが、それでもよいか。

## 2) ピアレビューを行った感想(調査対象者数 18, 回答数 17)

### 1-1) ピアレビューを行ってよかったか(有効回答数 16)

「よかった」が15名(94%)であった。「よくなかった」が1名(6%)いた。

### 1-2) 上記回答をした理由

#### (1) 「よかった」と回答した理由

- ・先輩の授業を拝聴でき、勉強になった。
- ・他の先生の講義をみるチャンスは少ない

(ほとんどない)ので、見られたことで、良い部分は自分のクラスにも取り入れていきたいと思った。

- ・授業の工夫などを知ることができる。
- ・他の先生の授業を見学することは、自信のないスキルやテクニックを確認する上で意義深いと思う。
- ・自分の授業の参考にもなった。
- ・他の先生の指導内容や方法をみることで、自分の授業の改善点なども見つけることができた。
- ・他の教員の授業の進め方を知ることができた。
- ・その先生の工夫や意図を知ることができた。
- ・自分の授業の参考になった。
- ・他教員の講義を体験することにより、講義での工夫点や構成について学ぶため。

### 2-1) ピアレビューを行ううえで支障はあったか (有効回答数 17)

「支障はなかった」が15名(88%)であったが、「支障があった」が2名(12%)いた。

### 2-2) 「支障があった」と回答した理由

- ・時間を合わすのが大変だった。

### 3-1) 評価項目について (有効回答数 16)

「このままでよい」が10名(62%)、「変更が必要」が4名(25%)、「その他」が2名(13%)であった。

### 3-2) 上記回答をした理由

#### (1) 「このままでよい」と回答した理由

- ・1~2年は現行を用いて、意見を改善していくことで良いと思う。

#### (2) 「変更が必要」と回答した理由

- ・もう少し自由度があっても良いと思う。
- ・項目の②授業展開、③授業方法への記載事項が重複してしまう。

- ・項目数が多く、全て記述式のため、レビューの負担が大きいように思う。選択式+簡単な記述にしてはどうか。

### (3) 「その他」と回答した理由

- ・反転授業における事前学習やリアクションペーパーの受け答えなど、学習全体の構成や方法といった(個人的に最も欲しい)情報が得られないため。
- ・評価用紙の使用目的に応じて調整が必要だと思った。

## 4) 感想, 意見

### (1) 良かったとする感想・意見

- ・レビューした先生の授業が大変よく、参考となった。特に、事後のディスカッションが互いの授業を高められるように思った。
- ・他の授業を受け、評価することで、自分の授業にも反映できるのでよかった。

### (2) 改善を要するとする感想・意見

- ・現行のピアレビューは講義のテクニカルな評価が中心となり、授業の質向上という大きな課題に寄与するのには些か疑問である。
- ・職位が上の人に対して、ピアレビューで意見は言えない。
- ・ピアレビューというと、正式には査読であるように思う。授業について査定を受けているわけではないので、授業改善のための〇〇等、名称を変更した方が良いように思った。

## 4. 考察とまとめ

アンケート調査結果より、ピアレビューについては、自分では気づけない授業改善に役立つ指摘がもたらされたことを「よかった」と感じている教員がほとんどであり、ピアレビューがFD

活動を行っていくうえで有意義な機会となることが確認された。しかし、「ピアレビューを受けた人」にとっては、実施方法、業務との調整、レビュー者について改善を要するとする意見も挙げられた。具体的には、1回の授業のピアレビューでは授業全体の構成や方法について等、授業設計に関わる助言が得られづらい、他業務との調整が難しい、レビュー者については、頼みづらい、職階が上位の人に対してのレビューは行いづらい、マイナスの意見がもらいづらかった等である。また「ピアレビューを行った人」からも、他業務との調整の難しさや、評価項目の多さや重複から生じる負担感の指摘があった。

本学部で行うピアレビューの特徴として、実施期間を春semester時と長期間に設定し、レビュー者や授業科目、ピアレビュー回数に自由度を確保している点があり、改善を要するとされる内容のなかには、レビュー者がピアレビューの活用目的を焦点化し、活用方法を工夫することで改善できる点もあると考えた。一方で、今後、実施者が負担感なく、またメリットを感じられるようにするためにも、評価項目、レビュー者の選出には配慮が必要であることがアンケート結果から考察された。

「事後のディスカッションが互いの授業を高められる」と感想にあるように、各教員が授業についての他者評価力や自己内省力を高め合

い、結果的に各々の授業改善に繋がるのがピアレビューの理想的な活用方法と考える。そのためにも、今回のアンケート調査結果から挙げられた改善点-具体的には、評価項目の項目内容や項目数や記述方法の工夫、レビュー者の選出やピアレビューの実施にあたり、レビュー者、レビュー者双方が負担を生じないために必要な配慮について学部FD委員会から促す等-について、今後のピアレビュー実施にあたり具体化していきたいと考える。

### <文献>

- 1) 中央教育審議会：新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－ 答申，平成17年9月5日，文部科学省ホームページ [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05090501.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05090501.htm)
- 2) 荻谷剛彦，緒田裕子：「教育評価から見えてくるもの」 荻谷剛彦・金子真理子編著『教育評価の社会学』岩波書店，2010
- 3) 矢倉千昭，田島明子，根地嶋誠：聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部における授業開放週間（オープンウィーク）とピアレビューの試み，リハビリテーション科学ジャーナル，11：67-79，2015.

# The Status of Faculty Peer Review Implementation and Survey Results of 2016 in the School of Rehabilitation Sciences at Seirei Christopher University

Akiko Tajima, Chiaki Yagura, Junko Satou, Maki Tanaka

Faculty Development Committee, School of Rehabilitation Science, Seirei Christopher University

## **Abstract**

The current study describes the method of faculty peer reviews and the status of faculty peer reviews implemented in the spring semester of 2016, and reported the results of a questionnaire survey about the peer reviews, in order to gain insight about the significance of the peer reviews and future issues. The results of the survey showed that most of the faculty members felt that it was good to be able to receive feedback that they would not otherwise have received, as the feedback would be useful in improving the quality of their teaching. The results suggested that the peer reviews would provide a meaningful opportunity in conducting faculty development (FD) activities. However, the results also revealed that improvements were needed about the content and the number of items, rating methods by reviewers, and selection of reviewers. In addition, it would be helpful for the FD committee to encourage peer review to be performed with consideration on reviewer-reviewee relationships so that the peer review process would not become a burden on both the reviewee and the reviewer.